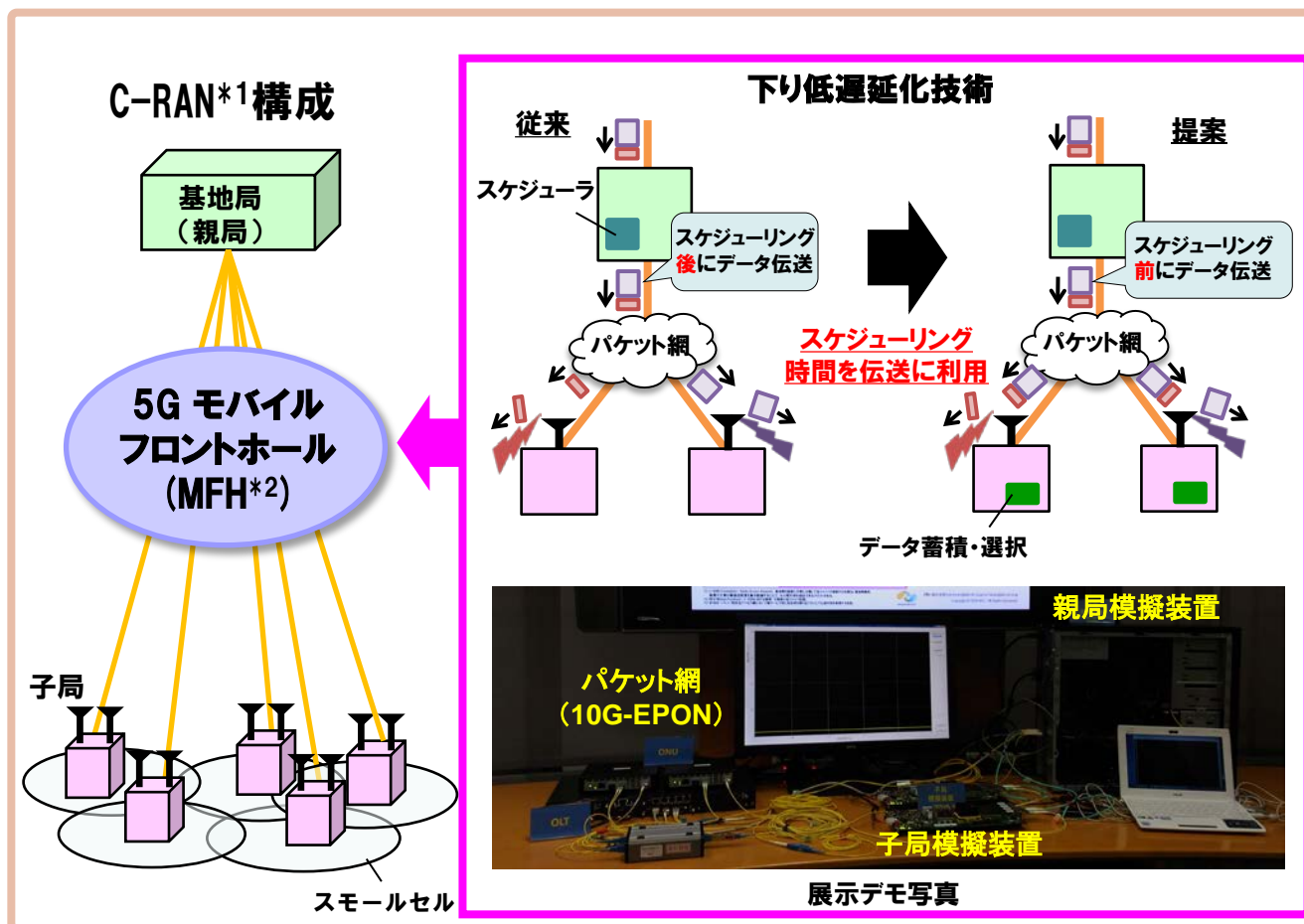


## 無線トラフィックが増えても基地局を効率的に収容します

We provide effective accommodation of base station against explosive mobile traffic

2020年以降のモバイルアクセスでは、非常に多くのスモールセルを高密度に配置し、爆発的に増加する無線トラフィックに対応することが想定されます。これらの無線トラフィックの効率的な収容実現に向けて、課題の1つである下りデータ伝送遅延を低減する技術について紹介します。



## 特 徴

- 5Gモバイルアクセスでは、MFH\*2をパケット網とする検討が進められているが、光ファイバ等を全子局で共用（時分割利用）することになるので、特にトラフィックが多い下りの伝送時間が増大する課題がある。
- 提案技術では、送信データを予め全子局に伝送し、親局でのスケジューリング結果に基づいて各子局が必要なデータを送信することで、下り伝送時間の削減を実現

## 利用シーン

- PON (passive optical network) 等のパケットベースのアクセスネットワークによる効率的なスモールセル収容

\*1 C-RAN (Centralized - Radio Access Network) : 基地局を親局と子局に分割して光ファイバで接続する光張出し基地局構成。

親局で子局の無線送受信を集中制御することで、セル間干渉を抑圧できるメリットがある。

\*2 MFH (Mobile Fronthaul) : C-RANにおける親局-子局間の光ファイバ区間。